

## 五十路をこえたブエノスアイレス日本人学校

紀井 寿雄

### 【はじめに】

◆ブエノスアイレス日本人学校が産声を上げてから 50 年が過ぎました。先達が積み重ねてきたことのすべてがラ・パンパ通り 3520 番に詰まっています。一方で、年数の経過によって、いろいろな「粗」が見えていました。日本人学校を運営する日本文化教育協会の会長に私が就任した時の喫緊の課題は校舎の修繕でした。半世紀経ったブエノスアイレス日本人学校を取り巻く様子をその当時のポストの目線からお話しできればと思っています。



(授業の様子)



(発表会の様子)

### 【前置きとしての自己紹介】

◆筆者（私）ですが、そろそろ社会人生活 20 年目を迎えようとしたタイミングで、会社からアルゼンチン赴任の辞令をいただきました。それまで、仕事の関係で、同じ南米のウルグアイに 20 代のときに 3 年間、ブラジルに 30 代のときに 4 年間勤務しており、日本の反対側には 40 代で 3 回目の海外勤務を迎えようとしていました。

◆南米大陸と私とは浅からぬ縁があります。まず、母親が南米エクアドルの出身で、次に、育った家族は私が中学 3 年生 3 学期のタイミングでブラジル・リオデジャネイロに転居。多感な時期に 2 年間ほど美しさと混沌が調和された彼の地で過ごしました。中学生だった

私は義務教育終了の証となる卒業証書をもらうためリオデジャネイロ日本人学校に 2 月から編入。日本での受験対策のために既に仮卒業をした同級生たちのいない中学 3 年生のクラスに、先生と生徒 1 人のマンツーマン指導を 1 カ月近く体験して卒業式を迎えました。

◆後述のとおり、期せずして日本文化教育協会の会長職に就くことになりましたが、就任時に湧いてきた気持ちは、微力ながらもこれで恩返しができるかもしれない、ということでした。当時から遡ること約 30 年前、リオデジャネイロの地でたった 1 人の生徒のために、変則的に授業を組んでいただき、更には卒業式まで準備していただくなど、その時の日本人学校関係者への感謝の気持ちはいつまでも残っています。

### 【2019 年 7 月～2020 年 7 月】

◆前置きが長くなりました。2019 年 7 月、日本文化教育協会の会長職に就任しました。前年度にも副会長を担っていましたが、会長選出の期日を迎えても、誰も立候補しないなか、最後は役員に内定したメンバー同士立ち合いのもと、くじ引きで決めることになりました。当日、私は所用でその場に立ち会えず、後から「くじ引きで紀井さんに決まりました」との一報をもらいました。「本当（にくじ引きやったの）かな～」とも思うなど覚悟に欠けた就任劇でした。

◆五十路を迎えた日本人学校は、人間と似たところがありまして、校舎（人間でいうところの体）のメンテナンスが課題になっていました。前年度から校長室の雨漏り対策などいくつか着手していました。ただ、小手先の対応では間に合わないということで、役員のみなさんには複数年度にわたる精緻な検証を通じた修繕計画を立てていただきました。例えば、敷地内の数十メートルに及ぶ大木の伐採。もし暴風雨によって校舎に直撃したら百万円単位の修繕費では済まず、学校の運営資金がショートしてしまいます。修繕では計画の段階から担当のみなさんが業者に騙されないように見積もりや価格交渉含めて丁寧に対応することで、様々な角度のリスク回避に取り組みました。

◆在任中の大きな出来事の一つはコロナ禍の発生でした。特に、3 月 20 日から外出禁止令が出て、誰も日本人学校に通えない事態に陥りました。生徒児童にとっては学校に通う楽しみが奪われることになりましたし、その後の運動会や修学旅行なども軒並み中止・延期となりました。また、これまでの学校教育のルールの見直しが求められることになりました。例えば、今では当たり前となったオンライン授業です。先生方のご尽力もあって、ブエノスアイレス日本人学校では 4 月 20 日の新学期からオンライン授業を開始するなど、オンライン化へのシフトが相当早かったです。さらに、学校運営で大きなチャレンジになったのは、新学期から着任予定の先生方がアルゼンチン政府の政策によってしばらく入国できなかった

ことです。日本に留め置かれた先生方は 12 時間の時差のハンデがあるなかでオンライン授業を進められるなど、これまで経験したことのないご苦労がありました。アルゼンチンの通信回線の遅さや遠隔でのオンライン授業慣れしていない先生・児童生徒のやりとりなど試行錯誤の連続のなか、松田校長の陣頭指揮のもと、前進あるのみと取り組まれ、関係された方々の努力を思い出すたびにただただ頭が下がります。

◆2020 年 7 月 2 日、これも初めての取り組みとなったオンラインでの総会を以て会長としての任期を終え、竹中新会長にバトンを渡しました。そして 7 月 8 日、私のブエノスアイレス駐在の任期も終え、日本に帰国しました。

### 【未来からの留学生のために】

◆日本文化教育協会に携わる機会をいただいたことで、ブエノスアイレス日本人学校を違った目線から見ることができましたが、常に心の中にあっただのは、この学校の主人公は児童生徒だということでした。松田校長も「学校が預かっている子どもたちは、これからの社会を生きるために、今の時代に学びに来ている『未来からの留学生』」だと話していましたが、彼らが将来再びこの学び舎に訪ねてくることを想像しながら、どうやってその絆を強めていくのか、そして世代をつないでいくのかを考えていました。校舎の修繕はその一環だと思っていますが、どこまでお役に立てたかは心もとないところです。コロナ禍はその後も続き、日本人学校の運営にまつわる悩みは尽きないかと思いますが、「未来からの留学生」のために関係者のみなさまにおかれては引き続きご尽力いただければと願っています。



(運動会開会式の様子)



(PTA 臨時総会で挨拶する筆者)

(きいとしお：日本貿易振興機構ブエノスアイレス所長 <2017.1~2020.7>)